

第5回 あきる野市総合計画審議会 議事録

日 時：令和2年9月14日（月） 午後3時00分～4時20分

場 所：あきる野市役所5階503会議室

出席者：会長 菊地 俊夫 副会長 横倉 三郎
 委員 甲野 富和 委員 網代 和夫
 委員 大久保 春彦 委員 坂本 勇
 委員 安永 勝昭 委員 松村 博文
 委員 立花 晋也 委員 倉田 克治
 委員 浦野 知昭 委員 吉田 榮久夫
 委員 櫛 敏男 委員 多田 恵子
 委員 青木 且治 委員 吉田 正幸
 委員 伊東 満子 委員 齋藤 孝
 委員 田野倉 美保 委員 松野 利美

（欠席者：野島健也委員、近藤怜美委員、下村智委員、町田修二委員）

1 開会

（事務局）

2月に開催した第4回審議会の後、新型コロナウイルス感染症の感染が蔓延し、本市においても現時点で33人の感染者が確認されている。収束の見通しが見つからない中ではあるが、本日の会議では総合計画の期間の見直し等の報告を行うとともに、現時点の基本構想の見直し案を中心にご議論いただきたい。

また、本日の会議から、あきる野市観光協会の影山様に代わり、同協会の浦野委員が参加される旨、ご紹介させていただく。

なお、本日は野島委員、近藤委員、下村委員及び町田委員から欠席の連絡をいただいている。

2 会長挨拶

（菊地会長）

忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響下において会議運営を行うため、3密を避ける等、工夫を凝らしている。最長でも1時間半程度の時間において、密度の濃い議論ができるよう、努力したいと考えているため、ご協力いただきたい。

3 報告

（1）第二次あきる野市総合計画の策定期の見直しについて及び「総合計画策定方針」の変更について

【事務局から、資料1・2を用いて、第二次あきる野市総合計画の策定期の見直し及び「総合計画策定方針」の変更について説明した。】

（菊地会長）

資料1・2について、何かご意見はあるか。

(意見なし)

4 議事等

(2) 「第二次あきる野市総合計画策定スケジュール（令和2・3年度）」について

(菊地会長)

基本構想（素案）の見直しについて特に時間をかけて議論をしたいので、次第とは異なる順序で進行する。

【事務局から、資料4を用いて、「第二次あきる野市総合計画策定スケジュール（令和2・3年度）」について説明した。】

(菊地会長)

資料4について、何かご意見はあるか。

(意見なし)

(3) 令和2年度タウンミーティング開催の方向性について

【事務局から、資料5を用いて、令和2年度タウンミーティング開催の方向性について説明した。】

(菊地会長)

資料5について、何かご意見はあるか。具体の進め方等については次回の審議会で議論できるのか。

(事務局)

進め方は次回の審議会でも議論をいただきたいと考えているが、準備の兼ね合いもあり、対象者等は本日の議論で決定いただきたいと考えている。

(菊地会長)

対面・書面以外にオンラインでの実施も検討してはどうか。

(委員)

国の会議を見ると、参集とオンライン参加を併用する場合もある。書面開催もあり得るが、書面開催だと的確に意見表明を行うことが難しく、そもそも記入が煩わしい側面もある。

(委員)

今後の市の方向性を決めることを考えると、昨年度の対象者のみではなく、もっと広く募るべきではないか。

(菊地会長)

昨年度は中学生の意見も含まれていたが、今年度は意見聴取を行うのか。

(事務局)

昨年度は教育委員会の事業の中で意見聴取を行ったが、今のところ新たに行う予定はない。

(菊地会長)

本日の意見も含めて、次回の審議会で実施の具体案をお示しいただきたい。

(1) 「第二次あきる野市総合計画基本構想（素案）」の見直しについて

【事務局から、資料3を用いて、「第二次あきる野市総合計画基本構想（素案）」の見直しについて説明した。】

(菊地会長)

資料3について、何かご意見はあるか。

(委員)

ツインデミックという言葉が出てきており、新型コロナウイルスと新型インフルエンザ両方に対応しなければならないという見通しが示されている。あきる野市はどのような対応を考えているのか。

(事務局)

指摘の点は認識しており、状況を見て、基本構想の表現も変更したいと考えている。

(委員)

8ページで「山林」と出てくるが、他の部分では「森林」が使用されているので使い分けているルールがあるのであればお示しいただきたい。また、SDGsにおける森林の位置付けを明確化いただきたい。21ページの最後の二段落で「また」が続いているので表現を精査いただきたい。

(事務局)

山林・森林の使い分けは精査させていただく。SDGsについての指摘は基本計画の整理の中で関係性を示したい。その他の文章表現についても精査を進める。

(委員)

1ページの新たに加えられた文章が全体的に長く、わかりやすい表現を心掛けていただきたい。「障がい」と「障害」が混在しているが使い分けのルールはあるのか。

(事務局)

1ページは指摘を踏まえ、整理を行う。「障がい」と「障害」は使い分けのルールを設けて記載しているが、統一されているかどうか、改めて確認する。

(委員)

計画の中で、スポーツと文化の並記、あるいは文化の中にスポーツが位置付けられているので、表現を統一した方がよいのではないかと。

(事務局)

表現を精査する。

(菊地会長)

スポーツと文化は分けた方が望ましいのではないかと。また、コロナによって価値観や生活スタイルが変化してきた。新たに見直さなければいけない。他にご意見はないかと。

(委員)

39ページの青少年の健全育成の推進について、「青少年健全育成地区委員会やPTAが活発な活動を展開」とあるが、実態を反映しているのか。

(事務局)

各課からの調書に基づいて記載しているが、実感と異なるようであれば指摘いただきたい。

(委員)

PTAの役員を選ぶこと自体、難しくなっている中で、活発に活動しているといえるのか、この1文は無責任な印象を受ける。この方向性を指すのであれば実現に向けた具体的な取組が必要ではないかと。子ども達の実感も踏まえて表現を考えていただきたい。学校任せにするのではなく、地域が一丸となって青少年の健全育成に取り組むべきではないかと。また、「児童の健全な遊び場の提供」は遊び場が不足している現状をとらえると非常に重要な取組ではないかと。

(事務局)

まちづくりの方向性について、商業・観光、教育、市民協働等の分野はコロナ禍で大きな影響を受けていると認識している。各課との調整を進める中で今の意見も踏まえて議論したいと考えている。

(菊地会長)

観光について話題が出たが、観光協会として、まちづくりの方向性について要望はないか。

(委員)

バーベキュー客の獲得に力を入れており、武蔵五日市駅周辺の観光地への誘客が重要と考えているが、コロナ禍において人の出も少ない状況もあり、先行きが不透明であるため、方向性を模索している。

(会長)

コロナ禍で近隣観光の注目度が高まり、メディアでも秋川溪谷、秋川を取り上げる場面も増えているのではないかと。新型コロナウイルス感染症の感染が終息した後の持続できるような戦略を今から考えることが重要ではないか。

(委員)

秋川ファーマーズセンターはコロナ以前、半数の利用者が他地区からの来訪者であったが、コロナ禍においては入場制限をかけるほどの利用があると聞く。市外から見てあきる野市の農業が魅力的である証ではないかと思うし、地産地消と同様に地域外への魅力発信も重要であると考えている。

(委員)

自然災害の対応について、頻度や被害規模も大きくなることが予想される中で、計画中の表現もさらに厚みを持たせてもよいのではないかと。また、防災・安心地域委員会の計画中における位置付けについても検討いただきたい。それから新型コロナウイルス感染症対策について、「新型感染症」と統一して表現した方がよいのではないかと。他の委員から発言があった青少年健全地区委員会の取組は、地域によっては活発な場所もあるので、全体的な傾向を捉えて表現を考えていただきたい。

(事務局)

防災・安心地域委員会の計画上における位置付けについては今後検討したい。現時点では新型コロナウイルスの対応が中心となっているが、本計画は10年先のことを考えるものであり、新型コロナウイルスのみに限定する必要はないと考えている。また、青少年健全育成の件は繰り返しになるが、担当課と協議の上、実態に即した表現を心がけたい。

(委員)

この素案については、新型コロナウイルス感染症に係る表現が各項目に多く、総合計画としての位置付けの中で、項目の整理を行い、他の施策とのバランスを踏まえて、うまく表現を工夫してほしい。青少年健全地区委員会の話題が出ていたが、しっかり取り組み、継続している地域もある。

(委員)

先程の青少年健全育成に関する発言について、補足をしたい。青少年健全地区委員会やPTAの活動が活発ではない、ということが言いたいのではなく、今後の取組の継続性の観点で課題が大きいということにポイントがあるということをご理解いただきたい。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症の表現についてはわかりやすさを重視して精査する。新型コロナ

ウイルス感染症についての計画中の言及量をどの程度に収めるかは、今後の状況を見ながら、引き続き検討したいと考えている。

(4) その他

(事務局)

通常であれば審議会の審議事項について、事前に庁内の策定本部で検討した上で皆さんに審議をいただくところであるが、議会の審議スケジュールとの兼ね合いもあり、順序を入れ替え、本日の審議内容を踏まえて月末に策定本部を開催して意見集約を図ることとした。10月初旬には議会に対して、総合計画の策定方針やスケジュールの変更を報告し、策定作業を仕切り直したいと考えている。次回の審議会ではタウンミーティングの実施内容や配布資料等について示したいと考えている。

(菊地会長)

今の説明に対して意見はあるか。次回の審議会の際には庁内で揉まれた資料が事前に提示されるという理解でよいか。

(事務局)

タウンミーティングの際に示す資料と同様の資料を提示する予定である。

5 その他

(菊地会長)

次回の審議会出席に当たり、事前の資料確認を委員の皆さんへお願いしたい。他に何か意見はあるか。

(委員)

市民参加について、どの程度の定員を想定した結果として昨年度の人数であったのか。

(事務局)

各地区で3回実施し、定員最大30名に対して各地区平均で15名前後の参加であったが、計画策定に当たって把握したいと考えていたアイデアを聴取することが出来たと考えている。一方で、市民参加はタウンミーティングだけではなく、パブリックコメント等、多角的に実施することで幅広く意見を聴取することが重要であると考えている。

6 閉会

(横倉副会長)

半年ぶりの審議会であった。

新型コロナウイルス感染症の動向には諸説あるが、過去のスペイン風邪の事例を見ると、当時の対処法は新型コロナウイルスへの対処法とほとんど変わっておらず、予断を許さない状況とも考えられる。生活スタイルも大きく変わる中で今後の10年をどう捉えるか、引き続き活発な意見交換を行いたい。